

高岡市立博物館  
館蔵品展「未来へつなぐ高岡のお宝 一新収蔵品を中心に」  
会期：2014年2月8日(土)～5月6日(火)

出品目録

1 高岡が築いた歴史

高岡は、慶長14年(1609)に加賀前田家二代当主・前田利長によって高岡城の城下町として開かれました。利長逝去の翌年の元和元年(1615)、一国一城令によって高岡城が廃城となり、高岡町は衰退の危機を迎えます。しかし、三代当主・前田利常が高岡を「城下町」から「商工業の町」へと転換させたことにより、以後は経済都市として発展しました。明治22年(1889)には「高岡市」が誕生し、高岡は近代化に向けて歩み始めます。ここでは、様々な観点から高岡の歴史が見てとれる資料を展示します。

1-1 歴史資料に残る高岡 文書・絵図・写真などの歴史資料から、現代につながる高岡の歴史を読み解きます

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
1	越中射水郡城光寺村御印	寛文10年(1670) 9月7日	1	37.4×57.1	城光寺村に宛てられた年貢割付状。年貢率は61%だが、実際には約70%の負担であった。	当館 (山本峯一氏)
2	「二上山ヨリ四方遠山見渡之図」	嘉永5年(1852) 3月27日	1	23.5×172.6	石黒信之作。二上山を中心に能登から越後にかけての山々を見渡した図である。	当館 (山本峯一氏)
3	「二上山慈尊院ヨリ本社マデ道筋絵図」	嘉永5年 (1852)	1	28.4×34.9	石黒信之作。二上射水神社境内の寺院・慈尊院から二上射水神社撰社・日吉社までの道筋が描かれている。	当館 (山本峯一氏)
4	「西條組城光寺村古高並新開三卦境界分ヶ領絵図」	文久2年(1862) 6月	1	(本紙) 108.3×170.4	本林為員作。縮尺1,200分の1。	当館 (山本峯一氏)
5	写真「二上橋」(複写)	大正期	1	—	二上橋は小矢部川に架かり、守護町と開発本町を結ぶ。	当館
6	写真「小矢部川より二上山を望む」(複写)	昭和期	1	—	小矢部川右岸より撮影。	当館
7	写真「東宮殿下御台覧之光景」	明治42年(1909) 10月2日	1	20.7×26.7	皇太子殿下(後の大正天皇)が高岡古城公園で高岡御車山を御覧になった時の写真。	当館 (大菅明夫氏)
8	「高岡市街図」	大正7年(1918) 6月	1	53.8×79.2	縮尺2,500分の1。	当館 (古谷喜代美氏)
9	『富山県概観』	昭和11年 (1936)	1	縦16.4×横10.3 ×厚さ0.6	富山県の文化・産業などを紹介した冊子。	当館

1-2 戦争 必ず戦地から帰って来てほしいという出征兵士への願いが込められた資料を紹介します

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
10	千人針	昭和期	1	16.0×185.7	右読みで「武運長久祈」と日の丸が縫玉で表されている。	当館 (中澤亨氏)
11	千人針	昭和期	1	17.4×130.6	かつては五銭硬貨が縫い付けられていた。	当館
12	入営旗	昭和11年(1936) 1月	1	174.5×61.4	連隊に配属された兵士の入営を祝うために掲げられた旗。	当館
13	写真「大日本国防婦人会」	昭和13年頃 (c.1938)	1	13.5×19.9	大日本国防婦人会は、昭和7年(1932)に成立した女性の軍事援護団体。	当館 (野尻嘉昭氏)
14	写真「出征列車歓送の女学生」	昭和16年頃 (c.1941)	1	8.2×12.0	出征列車の見送りでは、近在の人々が多く集まり、兵士を送る歌を歌うこともあったという。	当館 (小倉長作氏)

1-3 高岡産業博覧会 昭和26年(1951)の産業博覧会開催に際し、様々な宣伝品や記念品が作られました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
15	マッチ箱ラベルファイル	昭和期	1	縦29.6×横23.6 ×厚さ41.2	富山県内外の旅館・飲食店・商店などのマッチ箱ラベル256枚が貼られたファイル。	当館 (金戸嵩氏)
16	バックル	昭和26年 (1951)	1	縦5.5×横4.0× 厚さ1.1	高岡産業博覧会の開催に合わせて作られた。原型は須賀木仙と伝えられる。	当館 (林泣童氏)
17	高岡産業博覧会会場鳥瞰図	昭和26年頃 (c.1951)	1	(本紙) 99.2×142.2	大浦彦一作。高岡ホテル旧蔵。	当館

2 高岡に暮らした人々の記録

慶長14年(1609)の高岡開町の際、町人(商人・職人など)たちは、越中・能登・加賀三国の藩内などから630人余りが集まり、利長は彼らに土地を無償で与え、税金も無料にしました。さらに鋳物業、魚鳥商売、木材・薪炭、回漕業などの重要な職業には数々の特権を与え、町の繁栄を図りました。開町当初の戸数(家数)と人口は、武士・町人とその家族などを合わせて1,200戸5,000人前後と考えられています。ここでは、利長が開いた高岡町の「家」に残る資料から、近世から近代にかけての町人の暮らしや商売の様子を紹介します。

2-1 飴屋家の記録 定塚町の飴屋六右衛門家と飴屋次郎右衛門家文書から見る、江戸時代の町人の暮らしの一端

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
18	銀銭借用証文	寛延3年(1750) 12月	1	22.6×19.0	新開発村・彦三郎より、定塚町・飴屋六右衛門宛て。	当館 (小坂達朗氏)

19	飴屋六右衛門、定塚町へ引越につき送状(写)	明和8年(1771)11月	1	24.2×14.2	源平板屋町・忠右衛門と小左衛門より、定塚町頭宛て。	当館 (小坂達朗氏)
20	町役指除願状案(後欠)	巳11月	1	24.2×29.0	差出人は飴屋六右衛門。	当館 (小坂達朗氏)
21	飴屋次郎右衛門病死につき実子松次郎の後見人承認願状	辰10月	1	23.2×25.6	飴屋次郎右衛門母・そよ、次郎右衛門妻・とわより、町会所宛て。	当館 (小坂達朗氏)

## 2-2 江川家の記録 川原町で鮮魚商を営んでいた江川家の資料と、商いで使う道具などを集めました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
22	有限責任魚鳥会社仮株券状(第701号)	明治24年(1891)7月1日	1	23.2×27.8	10円の仮株券状で、株金を全額入金すると本券状と引き替えられる。	当館 (江川正純氏)
23	高岡市魚市合資会社証(第277号)	明治35年(1902)11月10日	1	21.8×28.8	江川弥吉が会社に20円出資したので、その証拠として交付された。	当館 (江川正純氏)
24	大福帳	昭和10年(1935)	2	—	鮮魚商の売買が記録されている。	当館 (江川正純氏)
25	引札「越中福野浦町石原三次郎」	明治33年(1900)	1	53.3×37.8	「蒟蒻蠟燭製造所／并に煙草茶砂糖乾物金物／紙荒物売薬品々」。	当館
26	引札「越中大門町中町吉田商会大門支店」	明治39年(1906)	1	25.6×37.5	「各地銘酒／洋酒類／醤油酢／大販売所」。「古今十二傑双六」がデザインされている。	当館
27	引札「高岡市旅籠町仙田仁左衛門」	明治42年(1909)	1	36.4×25.3	「八百屋物砂糖／雑穀着物卸小売」。	当館
28	五つ玉そろばん		1	縦11.0×横32.8×高さ3.4	15桁あり、梁に「万千百十円十銭 千百十円十銭厘」と彫られている。	当館 (神保成伍氏)
29	四つ玉そろばん	昭和40年(1965)販売開始	1	縦6.5×横33.1×高さ1.8	玉算堂工業株式会社製のワンタッチでご破算ができる四つ玉そろばん「ソロマット」。	個人蔵
30	手回し計算機	昭和30年代	1	幅41.2×奥行17.4×高さ12.2	日本計算機株式会社(現・ビジコン株式会社)製の手回し計算機HL-21。	当館 (金戸嵩氏)
31	計算機	昭和50年代	1	幅24.6×奥行34.8×高さ8.6	カシオ計算機株式会社製の計算機R-11。	当館 (荒俣勝行氏)

## 3 高岡ゆかりの作家たち

高岡には、開町以来数多くの文化や伝統工芸が根付きました。文芸では、日常に直結した俳諧が広く庶民に親しまれ、高岡にも著名な俳人が集まりました。また、現在も高岡が誇る産業である高岡漆器や高岡銅器は、慶長14年(1609)の高岡開町と同時に始まったといわれています。これらは昭和50年(1975)に国から伝統的工芸品として指定され、「ものづくりのまち高岡」の発展を支えています。ここでは、高岡を拠点に活動した俳人・俳画家の筏井竹の門と著名な高岡漆器の漆芸家、そして彼らの作品を紹介します。

### 3-1 俳人・俳画家 筏井竹の門 高岡で創作活動を行った竹の門に関わる資料を集めました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
32	『白楡』(第2巻1月号)	大正12年(1923)1月	1	17.5×13.2	高岡・白楡詩社より発行された短歌誌。	当館 (古谷喜代美氏)
33	『閃光』(第3巻3月号)	昭和2年(1927)3月	1	21.3×14.3	高岡・閃光詩社より発行された短歌誌で、『白楡』が改称したものの。	当館 (古谷喜代美氏)
34	『あしつき』(昭和8年3月号)	昭和8年(1933)3月	1	19.0×8.5	高岡で発行された俳句誌。	当館 (古谷喜代美氏)
35	画帖『瞰流帖』	大正8年(1919)10月	1	縦10.3×横7.2×厚さ2.0	筏井竹の門が南砺市利賀村の大牧温泉を訪れた際に描いた絵を集めたもの。	当館 (寺田白樺洞)
36	柘榴	大正期	1	(本紙)164.9×32.0	筏井竹の門筆。所々に実のついた柘榴の木が描かれる。	当館 (寺田白樺洞)
37	俳画「芒」	大正期	1	(本紙)145.0×22.2	筏井竹の門筆。2本の芒が描かれる。	当館 (寺田白樺洞)
38	俳画「花」	大正期	1	(本紙)145.2×23.0	筏井竹の門筆。鉢に入った桃色の花が描かれる。	当館 (寺田白樺洞)
39	絵付中鉢	大正期	5	—	筏井竹の門が絵を付した中鉢。見込みには風景や菊、水仙が描かれる。	当館 (寺田白樺洞)
40	黒田焼 徳利	大正期	4	—	角陶風作の黒田焼(射水焼)の徳利に、筏井竹の門が絵を付したものの。	当館 (寺田白樺洞)

### 3-2 高岡の漆芸作家 高岡が誇る伝統工芸の勇助塗をはじめ、高岡漆器の名工の作品などが揃いました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
41	グリ文堆朱長手盆		1	幅53.0×奥行30.3×高さ3.3	石井勇介作。堆朱でグリ文様が彫刻されている。	当館
42	鳳凰文飾盆	昭和53年(1978)	1	径30.4×高さ2.3	彼谷芳水作。彫漆により鳳凰が表されている。	当館 (越野培名男氏・越野信子氏)

43	涼風文蒔絵茶入	昭和49年(1974) 10月	1	径6.7×高さ7.5	高瀬竜一作。2匹の蛸と、夏草とその間を飛び交う蛸の光が蒔絵で表現されている。	当館
44	花唐草色絵会席膳		1	縦34.7×横34.7 ×高さ2.3	彩漆を使って四方に花唐草模様が描かれた10客揃いの会席膳。	当館 (山崎利男氏)

## 4 現代につながる暮らしの道具

現代に暮らす我々が生活するこの町にも、日常生活で使う道具にもそれぞれに歴史があります。多くの人々の発想・視点・経験・技術などが混成され、現在のかたちに結実しているのです。ここでは、様々な用途の道具を「婚礼」「多様化する食文化」「娯楽」というテーマに分類しました。先人たちの営みから、現代に暮らす私たちが使う道具の変遷や当時の人々の文化が見えてきます。

### 4-1 婚礼 様々な道具から、伝統的な婚礼の歴史が伝わってきます

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
45	ことぶき入場券	昭和43年 (1968)	1	6.0×15.5	新婚旅行出発時、親族や友人がこの券を使用すると見送りのために駅のホームに入場できた。	当館 (佐藤笑子氏)
46	亀に牡丹散模様道中着	大正期	1	丈163.5、衿 62.6、袖丈 61.0、袖幅33.0	婚礼の際に花嫁が嫁ぎ先の家へ入る時に着ていたもの。織物の小袖で、収納木箱の内側には竹の図が描かれている。	当館 (藤平和子氏)
47	合わせ水の竹筒	昭和期	1	径6.2× 高さ23.4	合わせ水の儀（水合わせの儀）の際、新婦が竹筒や銚子に実家の水を入れて持参し、新郎の家の玄関先で杯にその水を注いで飲み干した。また、両家の水を合わせて飲む場合もある。	当館 (金戸嵩氏)
48	楼閣山水模様友禅染打掛	明治期	1	丈148.9、衿 62.2、袖丈 97.4、袖幅32.1	裕福な農家の嫁入りの際に使用されたもの。家紋は桐紋（日向紋）の五つ紋で、袖の下部や裾部分に真綿が入っている。	当館 (尾崎絹代氏)

### 4-2 多様化する食文化 明治以降、西洋文化の浸透により、食卓はより彩りを増しました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
49	アイスクリーム製造機	明治期	1	径22.4× 高さ26.1	家庭用のアイスクリーム製造機。	当館 (塩崎利平氏)
50	ジュース	昭和期	1	幅10.9×長さ 28.1×高さ24.9	ジュラルミン製。電気式のジュースが登場するまで使われた。	当館 (邑本順亮氏)
51	パン焼き器	昭和期	1	最大径21.4× 高さ12.3	戦後も配給制度が存続しており、米が足りなかったため代用食にパンを焼いていた。	当館 (織田睦夫氏)

### 4-3 娯楽 いつの時代も、様々な娯楽文化が人々の生活を潤していました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
52	『将棋懐宗』全	文化2年 (1805)	1	縦18.1×横12.0 ×厚さ0.3	江戸時代の将棋の解説書。	当館 (山本峯一氏)
53	SPレコード	昭和29年(1954) 6月	1	直径25.0	日本コロムビアより発売された戦後流行歌「富山おどり」「高岡ジャンソン」のレコード。	当館
54	日劇映画幔幕	昭和29年 (1954)	1	160.0×275.8	日劇とはかつて御旅屋町にあった日本劇場のことである。	当館 (林玄三氏)
55	優待割引券		1	9.0×20.5	下川原町にあったキネマ有楽（有楽キネマ）の4回分の映画割引券。	当館 (西田弘氏)
56	映画ポスター	昭和12年(1937)	1	54.5×39.5	高岡駅前にあった高岡映画劇場のポスター。	当館
57	ポスター	昭和期	1	54.0×38.5	高岡駅前の東宝高岡劇場に隣接していた文化ニュース映画劇場の6月の上映案内ポスター。	当館

## 5 藤井能三と教育

江戸時代の庶民の教育機関は寺子屋といい、高岡にも存在した記録が残っています。明治維新後は、明治元年（1868）に高岡学館、明治5年（1872）に待賢室などの教育施設が創設されました。そして同5年の学制発布を受け、翌6年（1873）、伏木に県下初の公立小学校である伏木小学校が藤井能三の尽力により開設されます。以後、今日にも残る多くの学校が高岡に設立されることとなりました。ここでは、高岡の公立学校設立の先駆者である藤井能三と、近代化のために能三が生涯を捧げた伏木関連資料を中心に、高岡の学校教育に関する資料を展示します。

### 5-1 藤井能三と伏木 富山県初の公立小学校を設立した能三と、彼がその発展に生涯を捧げた伏木を紹介します

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
58	藤井能三書状（木材運送船取り扱いの報告）	8月7日	1	12.0×31.0	藤井能三より谷道清之助宛て。	当館 (小沢昭巳氏)
59	『藤井能三翁銅像建設記念帖』	大正11年 (1922)	1	22.3×15.3	伏木町立伏木尋常高等小学校が、藤井能三の銅像建設を記念して出版した冊子。	当館 (八坂蜜子氏)
60	『富山県伏木青年学校要覧』	昭和13年(1938) 10月	1	縦19.8×横27.3 ×厚さ0.5	小学校に併設されていた伏木青年学校の概要や、授業や軍事訓練の写真が掲載された冊子。	当館 (望月保氏)
61	皇紀二千六百一年『伏木尋常高等學校・伏木女子青年學校卒業記念写真帖』	昭和16年 (1941)	1	19.3×27.7	生徒の写真を中心に、職員芳名録や卒業生住所氏名、昭和6年度～15年度までの在学回顧などが掲載された卒業アルバム。	当館 (望月保氏)

62	絵葉書「伏木測候所」	明治42年頃 (c.1909)	1	14.0×8.8	明治42年に移設されて間もない新庁舎の伏木測候所。現在の高岡市伏木気象資料館。	当館
63	絵葉書「伏木築港内上流 伏木橋」		1	14.0×8.8	伏木橋はかつて小矢部川に架かり、伏木と吉久を結んでいた。	当館
64	絵葉書「伏木河港平面図」		1	14.0×8.8	「伏木河港／荷揚場／棧橋／繫船壁／位置平面図／縮尺三千分の一」。	当館
65	絵葉書「(伏木港) 雲龍山勝興寺境内の大雪」		1	14.0×9.0	「絵葉書『フシキ／港の大雪』」の一枚。勝興寺は伏木古国府の浄土真宗本願寺派の寺院。	当館
66	絵葉書「(伏木港) 伏木公会堂前通りの大雪」		1	14.0×9.0	「絵葉書『フシキ／港の大雪』」の一枚。伏木公会堂は現在の伏木支所の場所にあった。	当館
67	絵葉書「(伏木港) 伏木小学校庭の大雪」		1	14.0×9.0	「絵葉書『フシキ／港の大雪』」の一枚。	当館
68	絵葉書「伏木国分浜より女岩を望む」	昭和期	1	14.0×9.0	女岩は、平成25年(2013)に「『奥の細道の風景地』有磯海」として国名勝に指定された。	当館
69	絵葉書「(伏木) 国分浜男岩より岩崎鼻灯台を望む」	昭和期	1	14.1×8.9	岩崎ノ鼻灯台は、昭和26年(1951)に伏木国分に建設された。	当館
70	絵葉書「(伏木名勝) 左岸より見たる伏木港・鉢伏山より見たる伏木港の夕景」	昭和期	1	14.1×8.9	鉢伏山は二上山の東側の山で、頂上には仏舎利塔がある。	当館

## 5-2 学びの道具 近世から近代にかけての子供たちが学校で使った道具を集めました

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
71	『算法通書』上・下巻	嘉永7年(1855) 3月	2	—	古谷道生著。江戸時代の算学の教科書で、本来は上・中・下巻の3冊組である。	当館 (山本峯一氏)
72	『百姓往来』	嘉永3年 (1850)	1	縦20.8×横14.6 ×厚さ0.2	農民の子供に農業用語や知識などを授けるために作られた教科書。	当館 (山本峯一氏)
73	『商売往来』		1	縦22.8×横15.8 ×厚さ0.7	商家の子供に商業に関する文字や知識を教えるための教科書。	当館 (山本峯一氏)
74	石盤		1	縦16.7×横23.0 ×厚さ0.8	石筆やチョークなどを用いて文字や絵図を書き、布で消して使用する書写道具。	当館 (長谷川洋氏)
75	『中等日本臨画帖』	明治31年 (1898)	1	縦18.6×横26.5 ×厚さ0.8	中等教育の図画科の教本。日用品や動植物、風景、人物のイラスト集である。	当館 (出町睦子氏)
76	『地理教科書』巻一	明治35年(1902) 4月	1	縦22.6×横14.9 ×厚さ1.1	高等小学校用。	当館 (山元喜太郎氏)
77	『新編 中等修身書』巻五	大正11年(1922) 1月	1	縦22.0×横14.8 ×厚さ1.0	修身とは現在の道徳に相当するもので、戦後廃止された。	当館 (大野武氏)
78	『第六学年児童用 尋常小学理科書』	昭和11年(1936) 8月	1	縦22.2×横15.0 ×厚さ0.6	生物や化学、物理などが総合的に書かれている。	当館 (山元喜太郎氏)
79	『甲種尋常科用 小学書方手本 第三学年下』	昭和10年(1935) 9月	1	縦21.3×横15.2 ×厚さ0.4	書道の手本帳。	当館 (山元喜太郎氏)
80	学生帽		1	最大径24.0× 高さ6.8	顎紐の留具に桜の意匠が施されている。	当館 (富田保夫氏)
81	油町尋常高等小学校通知表	昭和6～11年 (1931～1936)	1	17.2×12.8	6年間使用可能な冊子状の通知表で、健康診断の結果を記入するページもある。	当館 (林玄三氏)

合計 81件90点

## 凡例

- ・資料名は、原則として表題等の記載がある場合はこれを採用し、旧字は新字に改めた。
- ・年代は、「頃」を表す場合は「c.」とした。
- ・寸法は、縦×横 (cm) とし、複数資料については割愛した。

## 参考文献

- ・高岡市史編纂委員会編『高岡市史』中・下巻 (高岡市, 1963年～1976年)
- ・高岡市市制100年記念誌編集委員会編『たかおかー歴史との出会いー』 (高岡市, 1991年)
- ・富山大百科事典編集事務局編『富山大百科事典』上・下巻 (北日本新聞社, 1994年)
- ・「角川日本地名大辞典」編纂委員会 竹内理三編『角川日本地名大辞典 16 富山県』 (角川書店, 1987年)
- ・『高岡の町々と屋号』創刊号～第7号 (高岡旧町諸商売屋号調査委員会, 1993年～1999年)
- ・『高岡市古書古文庫シリーズ 第八集「高岡湯話(現代語訳)」』 (高岡市立中央図書館, 2003年)
- ・『勇助塗元祖 石井勇助三代』 (石井勇助顕彰碑建立実行委員会, 1985年)
- ・富山県工業試験場編『富山県漆工総覧』 (富山県漆器商工事業協同組合, 1971年)
- ・『高岡市制100年記念「高岡三代名作美術展 目録」』 (高岡市立美術館, 1989年)
- ・日本民具学会編『日本民具辞典』 (ぎょうせい, 1998年)
- ・『砺波郷土資料館収蔵民具写真目録「砺波の民具」』 (砺波市立砺波郷土資料館, 2006年)

公益財団法人 高岡市民文化振興事業団 高岡市立博物館

〒933-0044 富山県高岡市古城1番5号 TEL: 0766-20-1572 FAX: 0766-20-1570 <http://www.e-tmm.info/>